

2007年度よりみすみ病院に整形外科常勤体制が始まり、3年目を迎えた。

高齢化・過疎化の進む宇城・三角地区であるが、当院整形外科のニーズは高く、2009年度は延べ外来患者数6,373名となり地域医療に貢献できた。(図1)

外来診療回数を週4回維持し、地域のニーズに応えた。外来ではMRIや骨密度測定など画像診断機器を用いて正確な診断を心がけ、関節内注射や神経ブロックなど除痛効果の高い保存療法を選択し、それでも改善しない症例は積極的に手術を勧めてきた。当院では高齢者の骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症が主要臨床テーマである。2010年度も地域で支持される整形外科診療を行っていききたい。

2009年度の手術件数は166件となった(図2)。高齢者の大腿骨転子部骨折に対し骨接合術26例、大腿骨頸部骨折に対し人工骨頭置換術10例、骨接合術を3例行った。可及的早期の手術を行い、早期離床、ADLの自立を目指している。

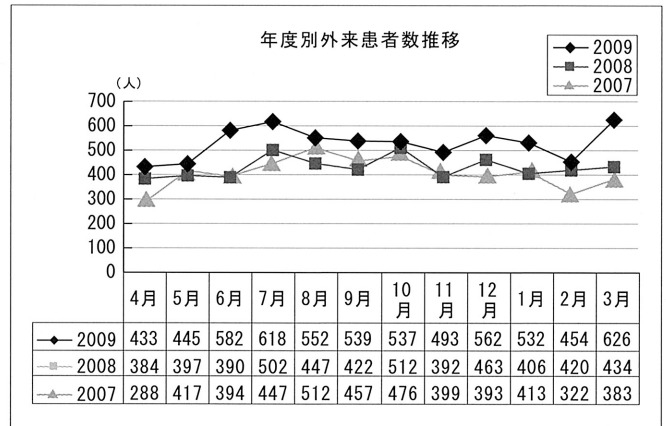
人工膝関節置換術(TKA)は17関節を行った。

その他脊椎外科では、頸髄症に対し頸椎棘突起縦割脊柱管拡大術4例、腰部脊柱管狭窄症8例を行った。またリウマチ患者などに対し手関節や足関節の関節固定術を5例行った。

大腿骨頸部骨折やTKA、脊椎外科は、クリニカルパスを導入し、入院・手術の標準化を行っている。

私のライフワークであるTKAも80例を超え、当科の看板手術となった。

(図1)



(図2)

